

歴史が導く災害科学の新展開

日時：平成30年2月10日(土) 13:00~17:00

場所：東北大学災害科学国際研究所 1F 多目的ホール

アクセス：地下鉄東西線「青葉山駅」下車、南出口より徒歩約3分

*駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。

当日参加可、事前登録は災害科学国際研究所HP (<http://irides.tohoku.ac.jp/>) より

第1部・文理融合型による災害研究の展開 (13:05~14:15)

今村文彦(東北大学災害科学国際研究所所長)

「災害科学国際研究所における文理融合型の研究活動について」

柳澤和明(東北歴史博物館研究員)

「貞観地震・津波研究の現状と課題

—陸奥国府多賀城跡における被害と復興を中心に—

後藤和久(東北大学災害科学国際研究所准教授)

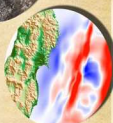
「地質記録にみる東北地方太平洋沿岸の津波履歴」

蝦名裕一(東北大学災害科学国際研究所准教授)

「歴史学研究的観点からみた慶長奥州地震津波」

平野勝也(東北大学災害科学国際研究所准教授)

「土木史からみる石巻と北上川」



第2部・被災史料を活用した新たな研究の展開 (14:30~15:30)

菊池慶子(東北学院大学文学部教授)

「仙台湾岸における海岸防災林の履歴」

川内淳史(神戸大学大学院人文学研究科特命講師)

「明治三陸津波と大船渡の近代化

—被災資料の保全作業を通して—

熊谷 誠(岩手大学地域防災研究センター特任助教)

「唐丹村行政文書にみる昭和三陸津波への対応」

川島秀一(東北大学災害科学国際研究所教授)

「三陸沿岸と災害文化」



コメント (15:30~15:50)

奥村弘(神戸大学大学院人文学研究科教授)

平川南(人間文化研究機構理事)

パネルディスカッション (16:00~17:00)

コーディネーター：今村文彦、奥村弘